

## 第2章 遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

当地区の調査では堅穴建物跡1棟、溝1条、土坑9基、その他の遺構7基、ビット80基が確認され、出土遺物は、縄文土器292点、土製円盤1点、石器・剥片51点、土師器3点、須恵器3点、中世かわらけ5点、中世陶器3点、近世磁器1点、近世陶器3点、礎盤石に転用された石皿1点、炭化物4点、合計367点が出土した。

### 第2節 各時代の遺構と遺物

#### 第1項 旧石器時代の遺物

当調査地区では、遺構外であるⅢ層及びⅣ層中から流れ込みと思われるチャート、黒曜石等の遺物が多数出土していること、また調査区が崖線至近の傾斜地に位置していることを鑑み、トレンチ掘削による旧石器調査を行った。なお、トレンチの掘削深度は、工事予定深度に基づき決定した。また、調査区南部については、縄文時代の遺構確認面より下層に工事掘削が及ばないことからトレンチ調査は実施しなかった。

調査はグリッドL 55 (21・22, 25・26) の位置に1.5 m × 3.5 m のトレンチを設け人力にて行い、その結果、Ⅵ層(武蔵野Ⅳ層)より石核1点、剥片6点が出土した。石核1点(6001)、剥片5点(6002～6006)を図示した。

#### 第2項 縄文時代の遺構と遺物

当調査地区からは縄文時代の遺構として、堅穴建物跡1棟(L 55-S I 23)が検出された。

当該地東側(1388.T次・509次・1295次調査ほか)では、縄文時代前期末葉と中期前半を主体とする集落跡(本宿町遺跡)が確認されており、当調査区で確認された堅穴建物跡、遺物も同集落と有機的に関連するものと思われる。縄文時代の遺物は、土器292点、土製円盤1点、石器・剥片44点が出土した。土器の時代幅は前期末葉から後期前葉であるが、中期初頭から中期前半の土器が大半を占める。

##### 1. 堅穴建物跡

L 55-S I 23 (別表1・6, 図面七・十五, 図版五・八)

**遺構** 表土掘削に伴う遺構確認作業の際、石囲炉の跡と思われる石組みが検出された。本来、方形に組まれていたものと思われるが、東側は水道管敷設の際に受けた攪乱により破壊され欠損し、石組みがコの字形に残存していた。石組内部を調査すると覆土は明らかに火の使用を受け赤化しており、その後、縄文土器の破片が出土したのを見て縄文時代の竪穴建物跡の炉跡と判断した。竪穴の掘り込みそのものは後世の土地利用のため削平され、この炉のみが検出された状況と考えられる。ただ周囲には建物跡を構成していたと思われる柱穴が複数あり、そのため、それらを取り込んだ直径5mほどの範囲を建物跡と想定した。ピット（建物跡内ピット1～6）は概ね径0.3m～0.4mを測り、確認面からの深さは0.3～0.6mを測る。炉に使用された石には目立った被熱の痕は無かったが、取り上げの際、部分的に割れやすくなっていたことを考えると、炉は低い温度で長期間使用されたものと考えられる。

**遺物** 縄文時代の土器14点、石器台石1点、剥片石器4点、炭化物3点、合計22点が出土した。縄文時代の土器6点、剥片1点（5007）を図示した。図示した縄文時代の土器は、五領ヶ台式（5001）、勝坂式（5002～5004）、阿玉台式（5005・5006）で、中期初頭から中期前半の縄文土器である。

## 2. 遺構外出土遺物

遺構以外の遺物は、中・近世の土坑から土器7点、溝から土器1点、その他の遺構から土器15点、剥片4点、ピットから土器11点、石皿1点、剥片2点、Ⅲ層から土器144点、土製円盤1点、剥片24点、Ⅳ層から土器7点、剥片2点、攪乱から土器11点、剥片1点、表土から土器82点、石器・剥片6点が出土した。そのうち縄文土器は81点、石器は14点を図示した。縄文土器は前期末葉の十三菩提式土器（5008・5009）、中期初頭の五領ヶ台式土器（5010～5021）、中期前半の勝坂式土器（5022～5057）、阿玉台式土器（5058～5074）、中期後半の加曾利E3式土器（5075～5084）、曾利式土器（5085）、後期前葉の堀之内式土器（5086・5087）、石器は、剥片（5090～5097）、打製石斧（5098～5100）、横刃型石器（5101）、磨石（5102）、スタンプ型石器（5103）、石皿（5104）である。

## 第3項 古代の遺物

当調査地区からは古代の遺構は検出されていないが、土師器3点、須恵器3点が出土している。詳細は、中・近世遺構であるL55-SK127から出土した土師器甕片が1点、須恵器甕片1点、L55-SK132出土の須恵器甕片1点、L55-SX70出土の土師器甕片1点、遺構外の表土出土の土師器甕片1点、須恵器甕片1点である。いずれも小片であったため、須恵器甕片（4001）のみ図示した。

中世以降の遺構覆土から出土した遺物は、二次的な要因により混入したものと推測されるが、近隣の既往調査でも報告されているように、当地域での古代における土地利用の痕跡と言える。